

1 調査名称：（うるま市）総合都市交通体系調査

2 調査主体：うるま市

3 調査圏域：市全域

4 調査期間：平成 30 年度

5 調査概要：

うるま市交通基本計画を策定するにあたり、昨年度実施した基礎調査（うるま市の現況及び交通課題の整理）を踏まえ、今年度調査では以下の項目を実施し計画策定した。

- ・将来道路ネットワークの検討
- ・将来公共交通ネットワークの検討
- ・重点エリアの策定と施策の方向性検討
- ・目標値の設定、推進体制の検討
- ・策定検討委員会、策定検討幹事会の開催
- ・パブリックコメントの実施
- ・市民意見交換会の開催

I 調査概要

- 1 調査名称 (うるま市) 総合都市交通体系調査
[うるま市交通基本計画策定調査]

2 報告書目次

第1章 業務概要

- 1.1 業務概要
 - 1.1.1 業務の目的
 - 1.1.2 業務対象地域
- 1.2 実施方針
 - 1.2.1 業務フロー
 - 1.2.2 業務の実施方針
- 1.3 業務組織計画

第2章 うるま市の現況及び課題

- 2.1 上位・関連計画の整理
 - 2.1.1 上位計画の整理
 - 2.1.2 関連計画の整理
- 2.2 うるま市の概要
- 2.3 うるま市のまちづくりの現状・地域特性
 - 2.3.1 市全体の人口
 - 2.3.2 地域別人口
 - 2.3.3 観光
 - 2.3.4 産業
 - 2.3.5 用途地域
 - 2.3.6 地域特性のまとめ
- 2.4 交通に係る現状
 - 2.4.1 うるま市を取り巻く交通の概観
 - 2.4.2 交通に影響を与える主要プロジェクトの状況
 - 2.4.3 現状調査・分析
- 2.5 交通に係る課題
 - 2.5.1 うるま市全体の課題
 - 2.5.2 地域別の課題

第3章 将来ネットワークの検討

- 3.1 将来動向の整理
 - 3.1.1 交通関連プロジェクトの将来動向
 - 3.1.2 課題に対する方向性
- 3.2 基本理念・目標及び基本方針
 - 3.2.1 基本理念

- 3.2.2 将来目標
- 3.2.3 基本方針
- 3.3 将来道路交通ネットワーク
 - 3.3.1 現状の問題点
 - 3.3.2 将来道路交通ネットワークの方向性
 - 3.3.3 道路整備の方針
 - 3.3.4 将来交通量推計
- 3.4 将来公共交通ネットワーク
 - 3.4.1 現状の問題点
 - 3.4.2 将来公共交通ネットワークの方向性
 - 3.4.3 公共交通に関する方針

第4章 重点エリアの策定、施策の方向性検討

- 4.1 重点エリアの策定
- 4.2 施策の方向性検討

第5章 目標値の設定、推進体制の検討

- 5.1 目標値の設定
 - 5.1.1 沖縄県他市町の事例整理
 - 5.1.2 うるま市の目標値
- 5.2 実現に向けた取り組み・推進体制
- 5.3 評価・検証・改善の手法

第6章 委員会及び幹事会の運営支援等

- 6.1 幹事会の運営支援
 - 6.1.1 資料作成
 - 6.1.2 議事概要
- 6.2 委員会の運営支援
 - 6.2.1 資料作成
 - 6.2.2 議事概要
- 6.3 関係機関協議
 - 6.3.1 関係機関協議資料作成

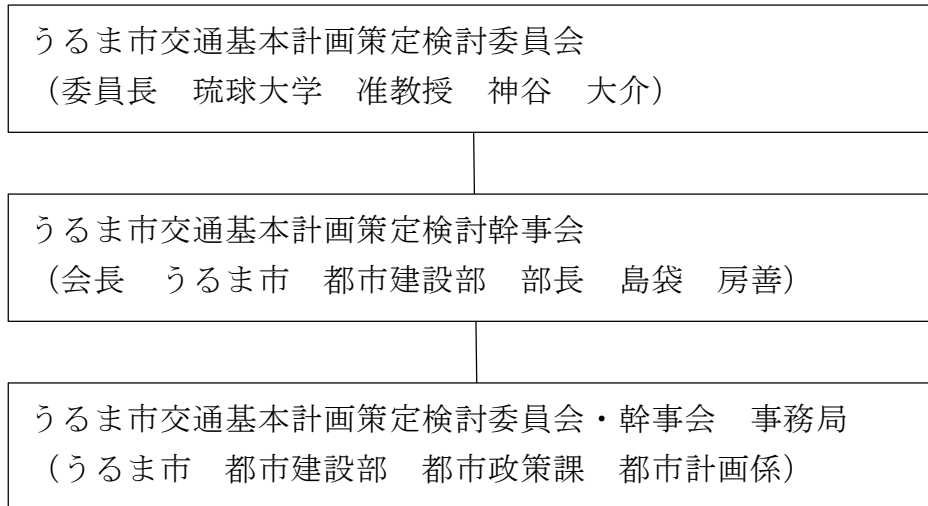
第7章 パブリックコメントの実施

- 7.1 パブリックコメントの条件
- 7.2 パブリックコメントの実施結果

第8章 意見交換会の支援

- 8.1 意見交換会の支援
 - 8.1.1 開催案の作成
 - 8.1.2 資料作成
 - 8.1.3 開催報告

3 調査体制



4 委員会名簿等：

委員会名簿

	所 属	役職等	氏 名
委員長	琉球大学 工学部	准教授	神谷 大介
委員	沖縄総合事務局 開発建設部 建設産業・地方整備課	課長	豊見山 秀樹
委員	沖縄総合事務局 開発建設部 道路建設課	課長	大城 照彦
委員	沖縄総合事務局 北部国道事務所	副所長	渡久山 雄一
委員	沖縄県 企画部 交通政策課	課長	長濱 為一
委員	沖縄県 土木建築部 都市計画・モノレール課	課長	照屋 寛志
委員	沖縄県 土木建築部 道路街路課	課長	玉城 佳卓
委員	沖縄県 土木建築部 道路管理課長	課長	多和田 真忠
委員	沖縄県 うるま警察署 交通課	課長	友利 元和
委員	沖縄県 石川警察署 交通課	課長	我如古 盛明
委員	沖縄県バス協会	専務理事	慶田 佳春
委員	うるま市商工会	会長	新垣 壮大
委員	うるま市観光物産協会	副理事長	瑞慶覧 朝成
委員	うるま市自治会長連絡協議会	会長	西原 洋子

委員	うるま市 企画部	部長	天願 雅也
委員	うるま市 市民部	部長	当間 重俊
委員	うるま市 経済部	部長	佐久川 篤
副委員長	うるま市 都市建設部	部長	島袋 房善

幹事会名簿

	所 属	職 名	氏 名
会長	うるま市 都市建設部	部長	島袋 房善
副会長	うるま市 都市建設部	参事	目取真 康史
委員	うるま市 企画部 企画政策課	課長	大田 義浩
委員	うるま市 企画部 防災基地涉外課	課長	中里 和央
委員	うるま市 市民部 市民協働課	課長	登川 愛子
委員	うるま市 経済部 産業政策課	課長	金城 和明
委員	うるま市 経済部 観光振興課	課長	松岡 秀光
委員	うるま市 都市建設部 都市政策課	課長	浜田 宗賢
委員	うるま市 都市建設部 道路公園課	課長	知念 直樹
委員	うるま市 都市建設部 維持管理課	課長	仲村 光男
委員	うるま市 消防本部 警防課	課長	渡具知 政治

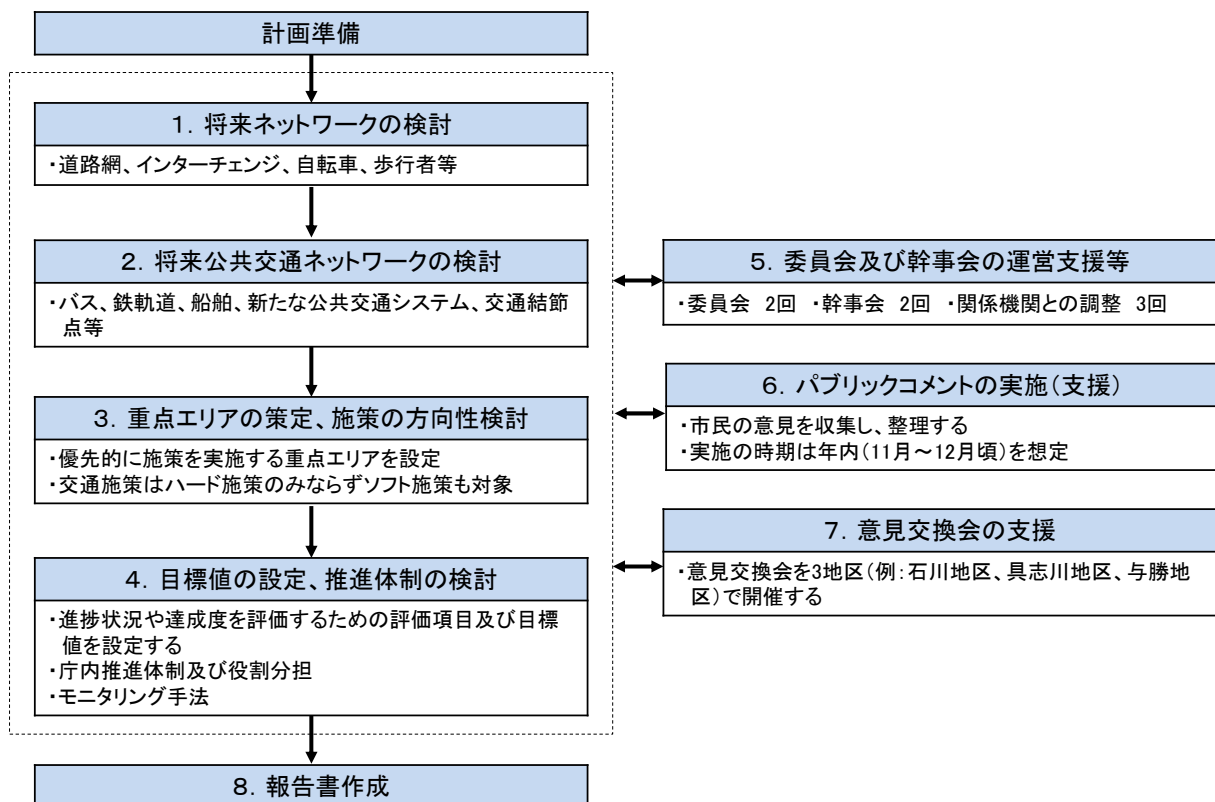
II 調査成果

1 調査目的

2市2町が合併したうるま市は、地域拠点を結ぶ道路・公共交通ネットワークの効率的な配置が課題であり、将来都市構造のあり方から目指すべき方向性や目標を策定し、総合的な交通関連施策を計画的かつ戦略的に展開する必要がある。

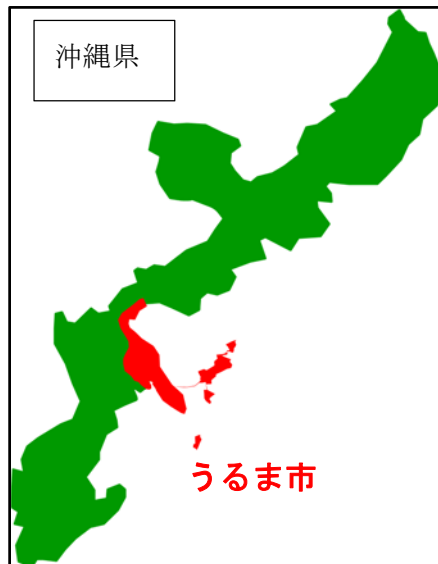
本調査は、本市総合計画、本市都市計画マスタープランなどのまちづくり関連施策等を踏まえ、移動円滑化、環境問題への配慮、地域特性や市民ニーズ、土地利用密度等を考慮した将来のまちづくりに資するうるま市交通基本計画を策定するための調査である。

2 調査フロー



3 調査圏域図

調査圏域：うるま市全域



4 調査成果

将来ネットワークの検討

将来ネットワークを検討するにあたり、それぞれの課題に対する方向性を整理した。

表 課題に対する方向性

	課題整理から見えた留意点	上位計画等の方針や条件	今後の方向性
①道路混雑	交差点形状や道路線形等が起因する道路混雑と、道路網の未整備等が起因する道路混雑等、その発生要因別に検討すべき課題である。	市内景勝地等の美しい自然景観を保全し、史跡等の景観を活用しつつ、環境に配慮した道路交通の開発や整備を進めるべきである。	道路網整備は、物流円滑化のみならず、通勤・通学時の負担軽減や、救急医療施設への搬送時間短縮等、多方面に寄与するため必須目標である。
②物流・産業	産業集積地を発着し那覇方面へ向かう交通のアクセシビリティ向上や混雑の解消、市内移動時の混雑を解消させることが課題である。	ハシゴ道路を含めた道路網の整備が国県に明記されている。但し、県には低炭素社会の実現についても記載されている。	円滑な物流が実現できるような交通環境の充実を目指す。また、産業集積地への通勤は公共交通の利用促進を進める。
③公共交通	バス利用者は非常に少ないため、路線バスの便数増加等は簡単ではない。バス利用者を増やすにはどうしたらよいか。	上位計画では、地域公共交通の充実が掲げられている。県は、公共交通利用率を10%まで増加するとしている。また、市内を鉄軌道が通過する計画がある。	バス等の既設路線の利便性向上と利用促進を図りつつ、新たな交通システムであるLRTやBRTへのシフトを検討し、利便性の高い移動方策を構築する。
④防災・減災	液状化や浸水対策は大規模工事に繋がるため対策が容易でない。しかし、海中道路の災害時の走行空間の早期確保は最重要課題である。	防災・危機管理対策の充実や、防災体制の確立等、また、来訪者に対する情報提供手段の構築や避難誘導方策等について検討と明記されている。	液状化や浸水エリアを明確化し、そのエリアにおける避難経路等の危機管理策を構築すべきである。海中道路等は減災を優先し検討すべきである。
⑤安全・安心・バリアフリー	小中学生が安全に通学できる歩道の整備は重要である。街灯設置等は重要課題であるが、道路環境の向上のみならず、防犯等の観点も含んでおり、交通の領域を超えた課題であると考えられる。	安心・安全で住みよいまちの実現は市の総合計画の根幹の一部であるため、防犯等人命に係わる課題への対応は必要である。	魅力があり、安心して暮らしやすいまちを目指すためにも、通学路や生活道路等における安心・安全な歩行空間や自転車通行空間の確保など移動円滑化は不可欠であり、観光や防災向上の観点等と絡めて整備を進めるべきである。

⑥ 観光振興・道路空間活用	勝連城跡への来訪を促す案内看板の設置は比較的容易な課題である。しかし、島々を移動する観光ルートの創出は容易に解決できる課題ではないので、検討が必要である。	市総合計画では、多種多様なニーズに対応したネットワークの形成。加えて、クルーズ船の受入など広域的な観光対策の実施が目標とされている。	美しい自然環境と数多くの史跡を活かし、来訪者を呼び込むような、利用しやすく安心感のある交通サービスや道路空間の実現を目指すべきである。
---------------	---	--	---

基本理念・目標及び基本方針

「うるま市交通基本計画」は本市の将来都市構造のあり方から目指すべき方向性や目標を定め、総合的な交通関連施策を計画的かつ戦略的に展開するため、交通に関する上位計画として位置付ける。

基本理念

美しい自然環境を活かし、安心して暮らせる地域活力を創出する交通まちづくり

将来目標

前ページの①～⑥への対応を意識して、目標を3つ設定した。

目標1：新時代に向けた地域活力を創出する交通

主に①道路混雑、②物流・産業に対応

目標2：安全・安心で住みやすいまちの交通

主に③公共交通、④防災・減災、⑤安全・安心・バリアフリーに対応

目標3：美しい自然環境や景観を活かし、人を呼寄せるまちの交通

主に⑥観光振興・道路空間活用に対応

基本方針

基本理念と目標を踏まえ、それらを実現するための基本方針を示す。

基本方針Ⅰ⇒体系的な道路網の構築

基本方針Ⅱ⇒戦略的な物流の円滑化を図る交通環境の構築

基本方針Ⅲ⇒利便性の高い公共交通サービス等の構築

基本方針Ⅳ⇒災害時等の迅速な移動を実現させる交通体系の構築

基本方針Ⅴ⇒魅力があり、使いやすい道路交通空間の創出

将来道路交通ネットワーク

現状の問題点

うるま市の現状の道路交通の問題点について、以下のとおり整理した。

- 体系的な道路ネットワーク計画が不十分
- 産業や物流を支援する道路が未整備
- 災害時、緊急時の輸送機能が脆弱
- 魅力的な道路空間の不足

将来道路交通ネットワークの方向性

将来の道路整備を考えるにあたって、全体的な道路ネットワークの構築と自転車ネットワーク、その他の道路整備に分けて考える。

➤ 体系的な道路ネットワークの構築

- ・道路機能はトラフィック（通行）機能とアクセス・滞留機能に分類されるとともに、両者はトレードオフの関係にある。
- ・効率的なネットワークを形成するためには、トラフィック機能及びアクセス・滞留機能を考慮した階層型ネットワークを構築することが望ましい。
- ・体系的な道路ネットワークを考えるにあたっては、自動車専用道路（高速道路）、自動車の通行機能を重視する道路（主要幹線道路）、多機能道路（幹線道路、補助幹線道路）等について、うるま市における道路の機能等を位置付けることが重要となる。

➤ 安全で快適な自転車利用環境の整備

- ・市全域の自転車ネットワーク計画を策定し、広域的な自転車通行空間の整備を推進平成 30 年度に東部地域を策定。今後は市全域と近隣市町村含めた広域的なネットワーク計画に取り組む。

➤ その他の道路整備

- ・基幹バス延伸及び将来的な鉄軌道整備を見据え、駅前用地確保等に繋がる道路整備の推進
- ・災害時にも通行可能な道路整備の一環として、ラウンドアバウトの推進
- ・生活道路、通学路への通過交通を抑制させる「安全を守る道路」の整備推進
- ・自転車、歩行者が安心、安全に通行できる空間を確保するために道路空間の再編を検討

道路整備の方針

以上を踏まえ、基本方針毎の整備方針を以下の通り示す。

➤ 基本方針 I ⇒体系的な道路網の構築

- ・高速交通体系の道路ネットワークの構築
 広域的な道路軸としての「南北軸」「東西軸」
 市街地への交通を抑制し分散させる「環状道路」

→【南北軸】市の中心を通る沖縄石川線は、南北軸として、他地域を結ぶ主要なネットワークである。そのため主要渋滞箇所等の右折帯設置を推進し、2車線区間の複車線化を検討するなど機能強化を図る。

→【南北軸】はしご道路のトラフィック機能を強化し、国道329号の渋滞緩和に寄与する国道バイパスの整備を推進する。

→【南北軸】市南部地域を通る県道川田田崎（33号）線は、海中道路方面から沖縄本島南部方面、また本島西側に向かう宜野湾北中城線、北中城ICに繋がる広域的な道路として機能強化を図る。

→【新規IC】地域活性化の推進という観点と沖縄北ICの渋滞解消を目的とし、県道沖縄石川（75号）線と県道8号線、沖縄自動車道を結ぶ交通の拠点となり、ICアクセス10分圏域拡大、利便性の向上に資するうるまIC（仮称）の整備を推進する。

→【東西軸】観光拠点や産業が集積している勝連半島・島しょ地域とハシゴ道路ネットワークをつなぐ東西方向の中部東道路は、移動時間の短縮ばかりでなく救急救命活動にも寄与することから、規格の高い道路整備を推進する。

→【環状道路】県道具志川環状（224号）線は、市中部地域の市街地の外側に配置されていることから、主要渋滞箇所等の機能強化を図ることにより、環状道路としての交通機能を発揮し、朝夕を中心とする混雑を緩和する。

→【観光】世界遺産勝連城跡や海中道路等の観光地へのアクセスを向上し、観光客数増加等を目指す。また、自然景観に優れ、世界遺産勝連城跡から勝連半島の観光拠点をめぐる勝連半島南岸部道路の整備を推進する。

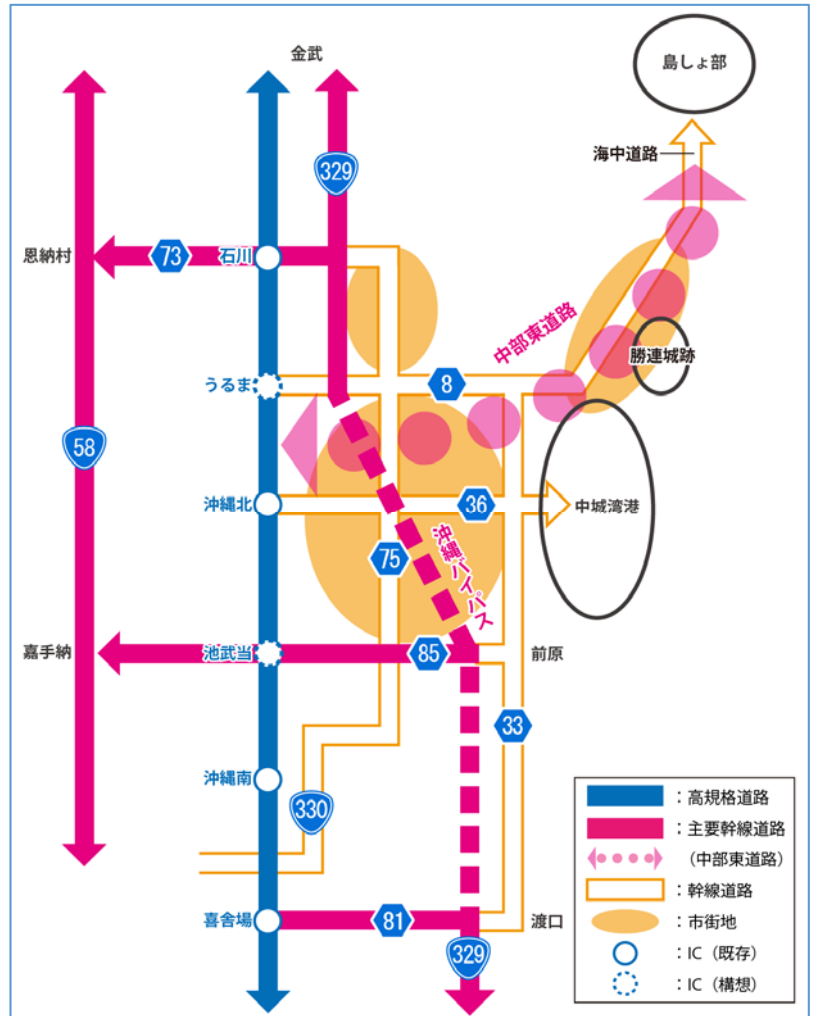


図 道路ネットワーク概念図

➤ **基本方針Ⅱ⇒戦略的な物流の円滑化を図る交通環境の構築**

- ・ 沖縄最大の工業地帯である中城湾港の交通アクセスを向上し、那覇港と機能連携を強化し物流の円滑化に寄与する。
- ・ 中城湾港から一番近い IC である沖縄北 IC までのアクセスを向上させ、産業活動や物流を支援する。
- ・ 企業の利用が多い県道沖縄環状（85号）線や県道宜野湾北中城（81号）線方面の交通アクセスを向上し、産業活動や物流を支援する。

➤ **基本方針Ⅳ⇒災害時等の迅速な移動を実現させる交通体系の構築**

- ・ 災害時においても沖縄のライフラインである油槽所までの交通アクセスを確保し、緊急時の災害復旧活動を支援する。
- ・ 島しょ部方面から県立中部病院までの所要時間を短縮し、救急搬送を支援する。
- ・ 災害後の速やかな道路啓開を見据え、緊急輸送道路の無電柱化を推進する。
- ・ 災害後においても高速道路へのアクセスを確保し、救援物資等の搬送を支援する。
- ・ 災害時でも自立する交差点であるラウンドアバウト（環状交差点）の整備を推進する。

➤ **基本方針Ⅴ⇒魅力があり、使いやすい道路交通空間の創出**

- ・ 自然環境を活かし、移動時に素晴らしい街だと感じる、風景街道（シーニックバイウェイ）のような景観に優れた道路空間を整備する。
※シーニックバイウェイとは、シーニック（Scenic：景観のよい）、バイウェイ（Byway：脇道、寄り道）といった意味の造語で、主に自動車の走行する道路からの視点で、景観、自然、文化、レクリエーションといった要素によって観光や地域活性化などを目的として、地域の魅力を具現化
- ・ 市街地においてはオープンカフェやイベント開催等により賑わいを創出するために道路空間を有効活用する。
- ・ 基幹バス延伸を見据えた県道沖縄石川（75号）線の拡幅、右折帯設置
- ・ 将来的な鉄軌道整備を見据え、駅前用地確保等に繋がる県道沖縄石川（75号）線の拡幅、右折帯設置
- ・ 島しょ部のみならずうるま市全体における自転車ネットワークの整備
- ・ 通学路及び歩行者が多い路線における歩道の整備

将来公共交通ネットワーク

うるま市の将来の公共交通ネットワークについて整理した。

現状の問題点

- 公共交通空白地域の存在
- 低いサービス水準

将来公共交通ネットワークの方向性

➤ 基本方針Ⅲ⇒利便性の高い公共交通サービス等の構築

高齢化社会の進展に伴う交通弱者の移動手段の確保については、早急に解決を図るべき課題であることから、まずは現在運行している公共施設間連絡バスの機能強化を図るとともに、公共交通空白地域の解消に向けて既存主要バス路線を補完する公共交通サービスを検討していきます。さらには地域の在り方に応じた新たな交通手段の検討も行います。また、既存の路線バスや新たな公共交通については、近隣自治体と協力し、生活圏を踏まえた公共交通のあり方を考えます。さらに、タクシーも公共交通であり、新たな交通手段を検討する前に、既存タクシーの活用、また立地の進むエリアでは、企業連携による乗り合い通勤バスを推進することも考えていかなければなりません。

公共交通に関する方針

交通手段毎の方針を以下に示す。

➤ バス

- ・市内2カ所のバスターミナルを拠点として、既設運行系統の維持及び、利用促進を目指す。
- ・PTPS（公共車両優先システム）の導入を検討する。
- ・市外への公共交通アクセスを向上させ、定住促進を目指す。
- ・主要なバス路線から空白地域をカバーする支線バス路線の運行を検討する。

➤ バス路線を補完する交通手段

- ・地域ニーズを把握した上で、コミュニティバス導入や福祉バスとの連携、タクシー券配布等の施策を検討する。

➤ 新たな交通手段

- ・支線バスでもカバーしきれない地区については新たな交通手段を検討する。
- ・自動運転技術の進展による新たな交通システムを検討する。
- ・LRTやBRTなど新交通システムの導入可能性を検討する。

➤ 鉄軌道

- ・鉄軌道構想を見据えた将来土地利用の観点から、県道沖縄石川（75号）線の複車線化実現に

向けて検討する。

- ・バスターミナル、幹線軸（高速バス、基幹バス）と支線軸（支線バス等）が交差する箇所、鉄道駅等を交通結節点としてしての整備を検討する。

➤ 公共交通促進支援

- ・環境負荷削減への貢献も視野に入れ、公共交通への転換や3つの変更（交通手段の変更、移動時間帯の変更、経路の変更）を促進するモビリティマネジメントの取り組みを実施する。
- ・公共交通は住民と協働で考えていくことが重要であるため、定期的な意見交換の場や、「公共交通会議」の設置を検討することで、住民主体の公共交通実現を目指す。
- ・公共交通を補完する移動手段として、自転車利活用を推進する。

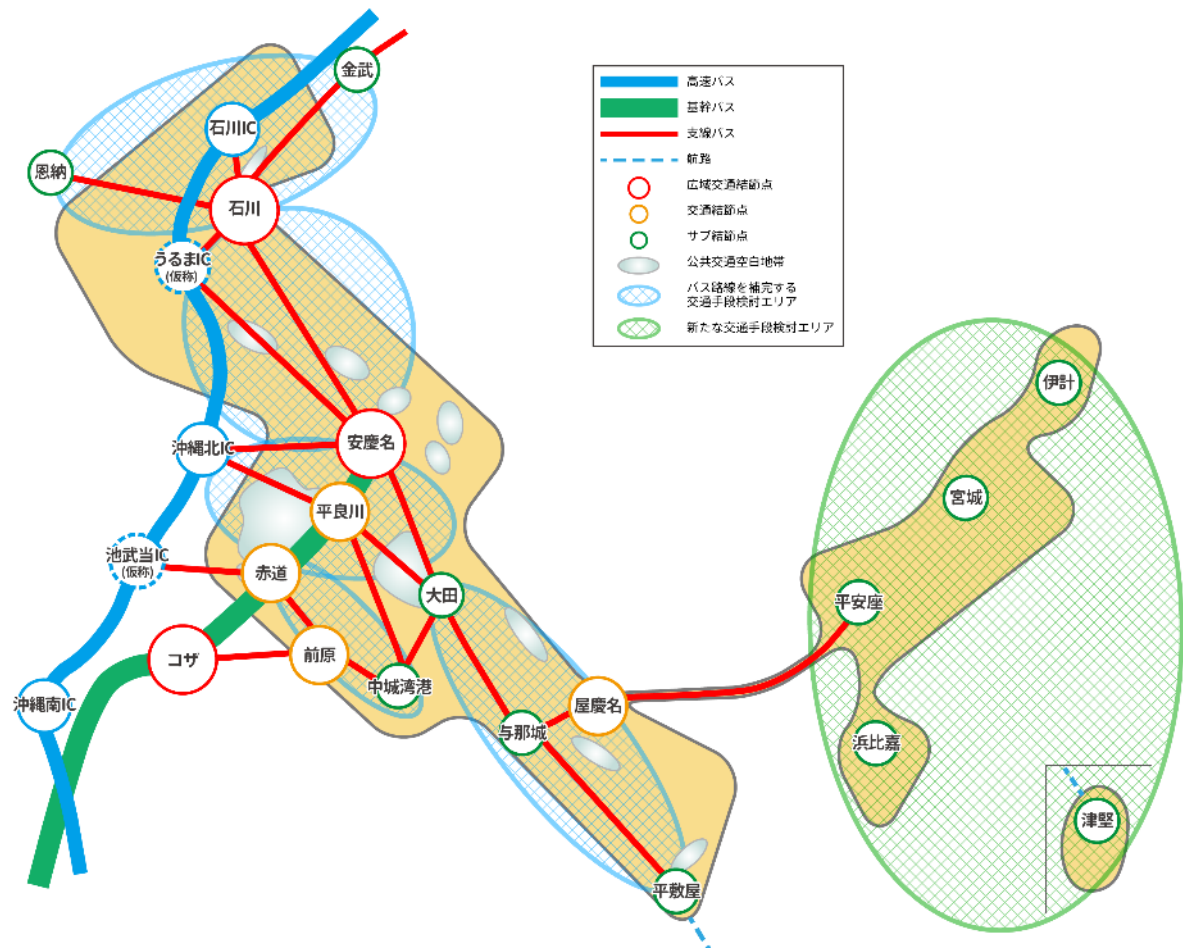


図 公共交通と都市構造の概念図

実現に向けた取り組み・推進体制

うるま市交通基本計画は、公共交通や観光、救急など関係する庁内関係部署が多岐に渡るため、目標達成のためには関係各課と連携する協力体制が必要となる。また、うるま市民のみならず、沖縄県や国、うるま市地域公共交通会議など、外部関係者とも連携・協働して進めていく。

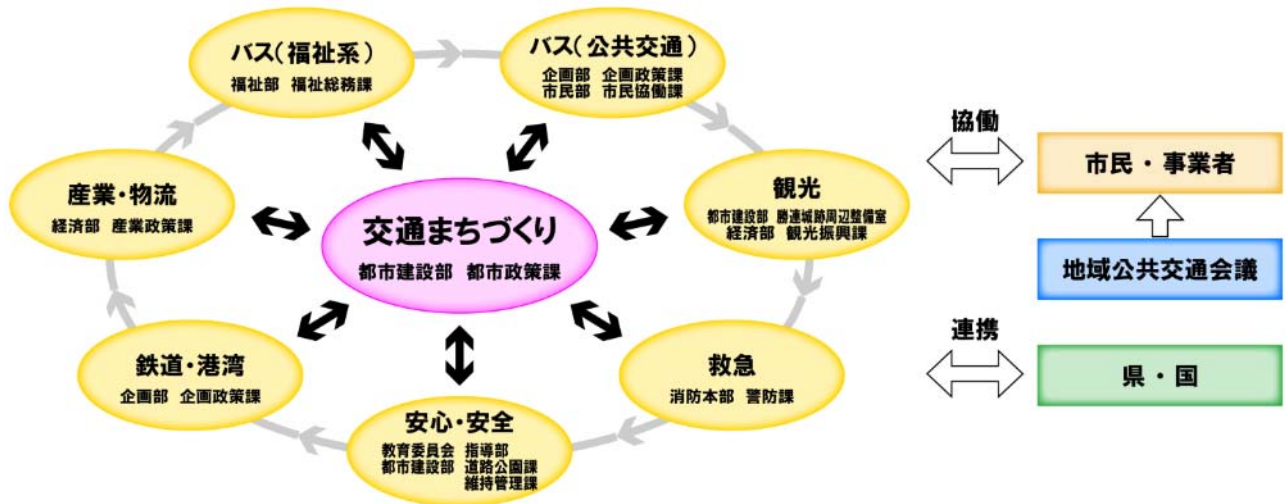


図 うるま市交通基本計画の推進に向けた庁内推進体制及び役割分担